

鳥屋野小学校 C Sだより



鳥屋野小学校
ホームページ

10月28日に令和7年度第2回 学校運営協議会（コミュニティ・スクール 通称C S）が
鳥屋野小学校多目的教室にて開催されました。その内容をお伝えします。

《学習参観》 協議会の開催前に委員の方々より学習状況を参観して頂きました。



What oooo do you like?
3年生は英語の授業中。
みんな耳を澄まして
よく聞いていました。

6年生が描いた
「思い出の校舎」が
掲示されていました。
みんな上手なので
驚きました。



学習参観後、本間知可教頭より新規オブザーバーとして参加の山岬和美さん（ふれあいスクール運営主任）の紹介がありました。次に、配付資料の確認と「とやのっ子フェスティバル（児童会まつり）」の紹介ならびに、5年生が育てたお米の販売の案内があり、その後協議会の開催となりました。

《協議会》

1. 会長挨拶

令和7年のふれあいまつり、地域防災訓練等の地域行事について報告がありました。

2. 校長説明

始めに、これまでに開催された校内行事や関連行事並びに、P T A活動の【校内クリーン作戦】などについて紹介がありました。次に、前期学校評価や、①特別支援学級の校内体制、②ひだまりルーム（SSR : Special Support Room）の整備と今後の運営について、想いを熱く語って頂きました。

※「ひだまりルーム」は、保護者、担任の先生の許可がある子どものみ、利用できる場所です。



※アンケート結果の詳細は、小学校ホームページの
「あいりす」令和7年度第4号でご覧頂けます。



◆◆重点的な方策「重点1～3」についての児童アンケート結果◆◆ ◎とてもそう思う ○まあまあそう思う

重点1 「知りたいこと」、「やりたいこと」に、友だちと関わりあってチャレンジする子ども

★「『知りたい』『やってみたい』という気持ちをもって学習している」◎59%○36%

★「ノート・タブレット端末に自分の考えや振り返りを書いている」◎63%○28%

★「タブレット端末を活用して、自分や友達の考えを比較したり分類したりしている」◎47%○42%

自分で「～が知りたい・やってみたい」と主体的・対話的に学ぶ力の育成を目指しています。そのため、授業において自己選択・決めることのできる機会を意図的・計画的に取り入れたり、ノートやタブレット端末を活用しながら思考し、振り返ることで成果や次の課題を見出したりできる授業づくりを行っています。今後も日々の授業が充実するよう努めています。

重点2 一人一人の違いや苦手を認め合い、みんなで輝く子ども

★「授業中、話を聴き合って活動している」◎60%○36%

★「一人ひとりの違い（苦手）を理解し、みんなで認め合って学習している」◎67%○30%

一人一人の違いや苦手を認め、協力し合いながら活動する力、他者を尊重し合って学び合う力の育成を目指しています。道徳や学級活動で「じいめ未然防止教育プログラム」を活用し、自分も他者も大事にする知識と実践的能力の育成を図っています。また、学級ばかりでなく1から6年生で構成する「なかよし班活動」や生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域の人との関わりといった、異なる年齢の人との交流の場も充実させています。

重点3 自分で、またはみんなで決めためあてに向かって、最後までやり抜く子ども

★「学級アンケートの結果から、みんなでがんばろうと決めたことに取り組んでいる」◎58%○32%

学級の話合いで決めた目標について、計画一実行一評価一改善の流れを繰り返すことで、自分たちでよりよい生活をつくっていく力の育成を目指しています。加えて、自分の気持ちに折り合いをつける・友達を許すことを含め、子どもたちが主体的によりよい人間関係を築いていく力の育成を目指しています。毎月18日を「ヒヤの日」として、各学級の取組を一人一人が振り返る時間を設け、実行の力をさらに高めています。



3. 意見交換（ワークショップ）【テーマ】不登校・不登校傾向の児童への支援

第1回学校運営協議会のワークショップで、委員より頂いた意見をまとめたものについて、更に実行に移せるようにするためにどうしたらよいか、3チームに別れて意見を交わして頂きました。

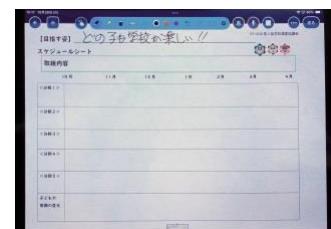
◎ひだまりルーム（SSR）の現状

月曜日の午前中は、職員が1名見守り、火曜日から金曜日職員の目が届かない時間帯がある。

【目指す姿】「どの子も学校が楽しい！」

[委員の意見]

- ・SSRの設備はお金をかけなければ可能だが、一番大事なところは「マンパワー」。
日替わりで先生を固定するか、関われるボランティアを募るか。
- ・利用者が5～6人であれば、週に1回でも良いし2時間でもよいから当該の保護者の祖父母の方等が交代で支援する事ができるかやってみたらどうか。
- ・それでも不足であれば、足りない人数・時間を学校が確認し、地域やPTAの方で専門家や経験者がいないか、やれそうな人がいないかを考える。
- ・学校も、学校の先生を卒業された方にもう一度戻って来てくれるような方がいるか、地域にいらっしゃるか探して頂けたらよいのかなと思う。
- ・こんな大事なお子さんたちを預かるのに、無償でやってくれる方がいるのか？
- ・専門知識をもっていたり、経験をされている方たちに無償でさせるのは一番いけない事と思う。専門知識をもっている人こそ対価があって然るべき。
- ・本来4月にはみんな自分のクラス替えとともに、自分の教室に行けるようになるとか、目標値みたいなものが見えると関わる我々の分担が見えたのかなと思います。
- ・今年度は生活指導主任をひだまりルームの担当として配置しているが、来年度は職員配置をより手厚くするよう学校は考えたらよい。
- ・ひだまりルームを利用している子どもたちは、どういう特性をもっているのか
どういう子たちなのかわからないと、通り一遍にどういう人材が良いのか、地域に呼びかけるところがなかなか難しいのではないか。
- ・当該の保護者の参加で横のつながりが生まれると良いのではないか。
- ・学校が声をかけて保護者に集まってもらって学校の担当職員とみんなでどうありたいのか、このひだまりルームが、どのようにしていくと良いか、子どもたちはどんなことを求めているか、再度考えたら良いのではないか。
- ・利用している子どもたちは、どんなことを求めているのか確認する必要がある。
- ・教育実習にきた学生さんが、ひだまりルームに行きうまく対応してくれたので、学生さんにも入ってもらったらどうか。



課題解決に向けて、今回いただいたご意見を活かしてまいります。

【出席委員】 ※ ◎:会長、○:副会長 敬称略・五十音順

◎阿部 洋一	鳥屋野校区コミュニティ協議会 会長	山田 文子	網川原保育園 理事長
安達 麻美	Siroionaka Design 代表	○吉原 幹治	鳥屋野小学校元PTA会長
西 道	ふれあいスクール運営主任	本間 浩之	鳥屋野小学校 校長
早川 祐子	鳥屋野ひまわりクラブ第4主任	本間 知可	鳥屋野小学校 教頭
三浦 智香江	鳥屋野小学校区スポーツ振興会 会長		
宮下 敏	鳥屋野小学校PTA会長	眞貝 俊憲	C S事務員
山岸 希	地区民生・児童委員協議会 会長	長谷川 梢	C S事務員（地域教育コーディネーター）

◇オブザーバー参加 新潟市議会議員 小野照子さん、ふれあいスクール運営主任 山岬和美さん

C S事務員より一言

今回もワークショップで、各委員の方々から鳥屋野小学校・子どもたちを思う熱い思いを頂きました。
これからも学校・保護者・地域が、ますます一体となって鳥屋野小学校の子どもたちを支えて行きましょう。